

平成23年制定
実弾紛失事故に対する再発防止策

慶應義塾體育會射撃部

目次

- 1 概要
- 2 再発防止策 1 弾薬管理システムの詳細
 2. 1 購入の制限及び許可制の導入
 2. 2 部側弾薬帳簿の導入及び運用
 2. 3 試合中の紛失防止
 2. 4 管理状況の定期チェック
 2. 5 AR 弾管理規則の運用
- 3 再発防止策 2 SB 陣の移動手段
 3. 1 現状と具体的な対策
- 4 再発防止策 3 部員に対する安全教育
- 5 再発防止策 4 危機管理ガイドライン策定
- 6 その他

1、概要

この再発防止策は、2010年10月に発生した本塾射撃部員による実弾紛失事件発生を受け、今後このような事態が二度と発生せぬよう、幹部陣によって策定されたものであります。

今回の事件では、実弾が入ったバッグを網棚に置いてしまう、紛失した実弾の数が試合後であるにもかかわらず非常に多い、また弾数をはっきりと把握できていない等、非常に不適切な管理を当該射手が行っていた事に起因するものですが、それはそもそも幹部陣を含めた全部員の認識の甘さや教育の不足、管理システムの不備等が原因であると考えられます。

この再発防止策では、実弾の管理を厳格化するための「弾薬管理システムの導入」、公共交通機関を極力利用しない「SB 陣の移動のルール」の策定、部員に対する安全教育、「危機管理対策ガイドラインの策定」等を行います。

2 再発防止策 1 弾薬管理システムの詳細

今回の事故は、弾薬の管理の不備が原因の一つと考えられるため、以下のような対策を行います。

2. 1 購入の制限及び許可制の導入

それまでは、弾薬の購入は時期、数量ともに射手各自の管理としていましたが、今回の事故では、無計画で過剰な数量の弾薬を購入し、また消費せずに大量に残弾を出し、なおかつはっきりと把握できていないという事実がありました。

そのため、まず第1の対策として、弾薬購入は事前申請方式とし、使用目的や購入数、種類などを明確にしたうえでSBマスターもしくは管理を行う部員に連絡し、許可を得た上での購入といたします。

具体的なプロセスは下記の通りです。

- 1、射手は使用・購入計画を決定し、SBマスターもしくは管理を行う部員（以下、管理部員）に購入する3日前までに連絡を行う。
- 2、SBマスター、もしくは管理部員は、「本当にその弾数でよいか」、「多すぎる、または少なすぎるのではないか」、「購入時期と試合（練習）の時期が離れすぎてはいないか」等を判断し、射手に許可（もしくは不許可）を出す。
- 3、許可を得た射手は速やかに弾薬の購入を行い、購入弾数及び種類を改めてSBマスター、もしくは管理部員に連絡する。
- 4、許可を得られなかった射手は改めて1からプロセスをやり直す。
- 5、SBマスター、もしくは管理部員は申請内容と実際に購入した弾数、種類を記録する。

また、メール等での連絡では、下記のフォーマットに準拠して送信します。

- 1、主たる使用目的
⇒「練習」「試合」のいずれか。
- 2、内訳
⇒試合の場合、日時と競技分類（伏射60発、三姿勢120発、三姿勢60発等）と弾数、種類
⇒練習の場合、当日行う練習の姿勢（伏射、立射、膝射）と弾数、種類
- 3、購入場所と日時
購入する店舗と日時を明記する。
- 4、消費場所

《記入例》

慶應義塾體育會射撃部 ○年 ○○×× (氏名)

以下の内容で、弾薬購入の申請を致します。

1

目的：練習 (○月×日)

内訳

伏射 80 発、立射 60 発、膝射 60 発 計 200 発

箱計算 4 箱 200 発

全弾 ELEY TEAM

購入場所、日時

○×銃砲店、○月△日

消費予定場所：△○射場

2

目的：試合 (○○年度秋季関東大会本戦、○月□日)

内訳：伏射 60 発競技 (本射 60 発、試射 40 発 = 100 発)・三姿勢 120 発
競技 (本射 120 発、試射各姿勢 40 発 = 240 発)

計 340 発 箱計算 7 箱 350 発

全弾 ELEY TENEX

購入予定場所、日時

○×銃砲店 ○月○日

消費予定場所 ○×射場

2. 2 部側弾薬帳簿の導入及び運用

今回の事件では帳簿の管理が不適切なため、紛失した弾数をはっきり覚えていない、という事態が発生致しました。現在も個人できちんと帳簿で消費や購入数を管理するよう徹底しておりましたが、第2の対策として、部においても帳簿を作成し、2つの帳簿で管理を徹底致します。

＜部側帳簿の運用法＞

部側帳簿は個人で管理している帳簿と並行して管理し、練習、試合毎に個人帳簿と内容をすり合わせるために使用します。主にSBマスターが管理し適時記入させます。また、マスターに任命された場合も同様に管理を行います。射手は、弾薬の消費、購入、許可証交付を受けた度に双方の帳簿へ記録しなければなりません。

以下に具体的な使用方法を記載します。

1、練習（試合）に必ず自分の個人帳簿を持参し、日吉にある部側帳簿も持つ

- てくる。個人練習する場合は個人帳簿を持参し、自分の分の部側帳簿も持ち出して練習に赴く。また、双方の帳簿が無い場合練習は例外なく禁止とする。
- 2、練習（試合）前に、それまでに購入した弾数や、現在個人で保管している弾数、その日持参した弾数を個人帳簿と部側帳簿に記入する。
 - 3、練習（試合）後に、その日消費した弾数、あまった弾数を個人帳簿と部側帳簿に記入する。
 - 4、また、火薬証を交付した日時や弾数、庫内貯蔵弾数も記入する。ただし、弾数及び庫内貯蔵数はその日使用した後の弾数を記入する。
 - 5、個人帳簿と部側帳簿に同じ内容を記入し終えたら、チェック欄に記入する。
なお、それまで使用していた弾薬を管理するための帳簿との統一は自由とするも、射撃部帳簿と個人帳簿は一字一句完全に同一の記入内容にしなければならない。

部側帳簿は密閉出来る頑丈なアタッシュケース状のケースに保管し、日吉射場内の分かりやすい位置に設置します。また、外側には弾薬帳簿のケースであることを明記し紛失を防止します。そして、アタッシュケース中のファイルケース内のクリアファイルホルダー内で射手毎に分けて保管します。

個人で実射練習する際にはまず個人練習をする旨をマスターに報告し、部側帳簿のみをケースから取り出し、個人用帳簿とともに練習に持って行き、練習終了後に記入、その後速やかに部側帳簿ケースに戻さなければなりません。

全体練習の際は必ずアタッシュケースごと練習に持ち出し、内部のケース、部側帳簿ファイル及び部側帳簿を分離して保管しません。

以下に部側帳簿の具体的なフォーマット及びその次のページには記入例を記載します。

《凡例》

1、日時/行事

この欄には練習日時もしくは試合日時、試合なら試合名を記入する。

2、交付/購入/消費

この欄には、火薬証の交付を受けた時には交付、弾薬を購入した際には購入、消費した際には消費の項目に○を付ける。

3、個数

消費、購入、交付数を記入する。大会が数日続く場合でも消費したその都度記入する。

4、種類

実包の種類を記入する（メーカー、弾種等）書ききれない場合は下の備考欄に記入する。

5、購入、消費場所

購入した場所、消費した場所を記入する。

6、持参弾数、消費後弾数

持参弾数には持参した弾数を開始前に記入し、消費後弾数は終了後に記入する。

7、残り庫内貯蔵

各自の装弾ロッカー内の貯蔵数を、消費または購入後に記入する。

8、残り許可数

火薬証によって許可された購入可能数の残数を記入する。

9、チェック欄

個人用の弾薬帳簿とのすり合わせが終了したらチェック欄にチェックする。

2. 3 試合中の紛失防止

試合中においても弾薬の紛失防止及び弾数確認のため、弾薬箱にはっきり「試射」「本射」等を明記します。

こちらは、関西学連が導入している方法を参考にさせていただきました。

参考：<http://www.studentsrifle.jp/kansai/documents/H21kansairule.pdf>

2. 4 管理状況の定期チェック

管理状況の確認のため、1か月に1度程度の頻度でマスターによる帳簿のチェックや管理体制に関しての意見を部内から集め、必要がある場合は是正します。

2. 5 AR 弾管理規則の運用

SB 銃及び実弾の所持の前段階として、AR 銃を用いた競技への参加は現状避けては通れない道となっております。実弾を所持、使用する前の下級生の段階

から、特別に許可を得て銃器や実弾を扱うことに対する責任を学び、責任感を養うため、AR 弾に関しても弾のパッケージ（包装）単位での管理を致します。

パッケージ単位で管理する理由と致しましては、弾は1 缶あたり 500 発入とされていますが、この数は缶によって前後している為に正確に1 缶に 500 発入っているわけではなく、1 発1 発の管理が困難であるためです。

帳簿への記入時期は、弾のパッケージの消費後、または入手後にその都度記入するものと致します。

トレーサビリティを上げるため、ストックしている弾のパッケージ数と帳簿の残存パッケージ数を本人と責任者の立ち会いの下、1 か月に1 度程度の頻度ですり合わせを行います。

以下に AR 弾用の帳簿のフォーマット及び記入例を記載します。

《凡例》

1、日時

この欄には練習もしくは試合において、その缶・パッケージを消費、入手した日付を記入する。

2、入手経路・用途

この欄には、どこで弾を購入したか、また消費した際にはその状況（練習であればその場所、試合であれば試合名）を記載する。

3、種類（メーカー、弾径）

弾のメーカー、種類、弾径を記入する。

4、入手数

弾を購入した際、この欄にその個数を記入する。

5、消費数

弾を消費した際、この欄にその個数を記載する。

6、残り

消費または購入後に所持している弾のパッケージの数をこの欄に記入する。

3 再発防止策 2 SB 陣の移動手段

今回の事故は公共交通機関内で網棚に荷物を置き忘れた事が原因であるので、今後 S B 陣の移動に際しての公共交通機関の利用は最小限に抑えるように致します。

現状では、車両の不足のために SB 陣の一部は公共交通機関の利用を行っています。今後、S B 陣は全員が練習及び試合時ともに基本的に車で移動しなければなりません。その際の公共交通機関の利用は乗換 2 回以内とし、やむを得ず利用する場合は絶対に銃器弾薬は体から離さずに運搬しなければなりません。

また、車両での事故防止の為にドライバーの育成も行います。

4 再発防止策 3 部員に対する安全教育

このような事故が二度と起こらないため、部員に対する安全教育を徹底致します。これまでも安全に関する指導は行ってまいりましたが、この度の事件を受け、再びしっかりとした安全教育を部員に行います。

具体的には、「銃器、弾薬の危険性」「銃刀法・火取法」「公共交通機関利用時の規定、注意点」等を指導徹底致します。

5 再発防止策 4 危機管理ガイドライン策定

この度の事故では、部員の認識不足による緊急時の対応の遅れという事態が発生しました。

このような事故はもう二度と起こしてはなりません、万が一の緊急事態のため、また部員への注意喚起のために危機管理ガイドラインを策定致します。

6 その他

この度の事故は、一部員の不注意のみで起きたというわけではありません。部員全員の認識不足であり、部全体の雰囲気や規律の緩みも原因です。

この度の事故を期に、部全体の雰囲気や規律の引き締め、注意喚起や教育を含めた抜本的な部全体の改革が必要であると考えております。

この点に関しても、部員全員が一丸となって変えていく次第です。

慶應義塾體育會射撃部は、この度の事故を踏まえ、二度とこのような事故を発生させないために、以上の再発防止策を徹底致します。

慶應義塾體育會射撃部

平成23年1月22日